

# 被害も、その後の不安も、 最小限に抑えたい。



地震の被害は発生時だけにとどまりません。その後に起こる不安や制限、ストレス。自宅が倒壊していなくても余震が心配で住み続けることができない場合が多く、避難所での共同生活や車中泊などの不自由によるダメージは計り知れません。東日本大震災では、私たちが免震を施した116棟の建物では家具等が転倒することなく、住み続けながら地域の復興をめざすことができました。さらに私たちは物件の敷地内に井戸やかまどベンチ、マンホールトイレの設置をおすすめしており、災害時には、お住まいの方々だけでなく、地域のみなさんの拠り所にもなると考えています。

免震で、  
安心を。

日本ではいつ地震が発生するかわかりません。日頃から正しくおそれ、備える事が大切です。現に、私たちが免震建物の開発を決意した1995年の阪神淡路大震災以降、鳥取県西部地震、十勝沖地震、熊本地震など、マグニチュード7以上の地震が14回も起こっています。建物のインフラとしての免震化をスタンダードとするために、スタートCAMはこれからも技術を磨いていきます。



能登半島地震で被災された皆さまには謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

